

JILPT 資料シリーズ

No.168 2016年5月

マクロの労働移動、転職市場の実態 —既存統計とヒアリング調査より—

マクロの労働移動、転職市場の実態

—既存統計とヒアリング調査より—

ま え が き

「外部労働市場の活性化による失業なき労働移動の実現」や「行き過ぎた雇用維持型から労働移動支援型への政策転換」などいくつかのスローガンとともに、転職市場を通じた労働移動促進政策が推進されつつある。しかし、労働移動や転職市場の実態については不明点も残されている。例えば、労働者の転職行動は一様ではなく、様々な属性別に転職の頻度や方法、その背景は異なっているはずであるが、具体的にどのような属性別にどのような違いがあるかについては殆ど知られていない。また、属性別に労働移動の実態が異なっているならば、「行き過ぎた雇用維持型」との指摘は、一部の労働市場についてのものとなり、当該労働市場に特化した移動促進策が求められると考えられる。

そこで当機構では、様々な既存の統計から得られる情報を整理するとともに、今後の外部労働市場のインフラを支える人材ビジネス事業者へのヒアリングを実施し、資料シリーズとして整理した。本資料シリーズが、近年の労働移動の実態やマクロの外部労働市場の見取り図となり、各方面における議論に貢献することができれば幸いである。

2016年5月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 菅野和夫

執筆担当者

氏名

所

属

執筆章

小林 徹

労働政策研究・研修機構研究員

序章・第1章

第2章・終章・付属資料

目 次

序 章	本稿の位置づけ—本稿の目的、方法について	1
第1章	マクロの労働移動の現状はどうなっており、 労働移動が促進されるべき分野はどこなのか	3
第1節	全体像と近年の動向把握	3
第2節	産業、職業、企業規模、地域別の実態と特性	9
1.	産業、職業、規模別の実態と特性	9
2.	地域別の労働移動の特徴	44
第3節	マッチング機能の向上について	52
第4節	本章のまとめ	58
第2章	民間職業紹介はどのような分野や人材層をターゲットとしているのか、 労働移動を進めるにはどのような方法があるか—ヒアリング結果より	61
第1節	ヒアリング調査の背景と目的	61
第2節	アプローチ過程と調査対象、調査項目	62
第3節	ヒアリング概要	65
1.	ホワイトカラー正社員層を層化する視点	65
2.	転職しやすい人材はどのような能力を有しているか	66
3.	自発的な労働移動が比較的容易な人材の市場規模	68
4.	近年の市場の変化と今後の展望	69
5.	労働移動を促進するための対策	70
6.	マッチングの取組みについて	74
第4節	ヒアリング結果のまとめと 労働移動の促進余地のある労働者層の定量的確認	78
1.	ヒアリング結果のまとめ	78
2.	民間職業紹介の利用が可能で民間職業紹介を通じて労働移動の促進が可能な 人材層がマクロの労働市場の中でどれほどのボリュームで存在するのか	78
終章	むすびと本研究のメッセージ	84
付属資料	ヒアリング調査 ケース記録	87